ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

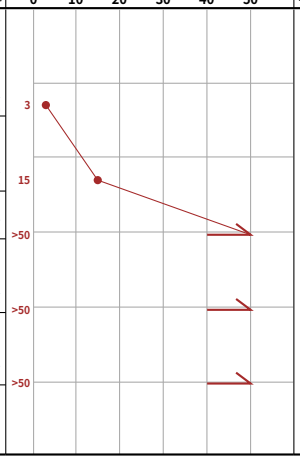
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-1	調査位置				北　緯	36 ° 35 ’ 53.0900 ”
発注機関	栃木県鹿沼土木事務所		調査期間	2009-07-07 ～ 2009-07-08		東　経	139 ° 40 ’ 1.4900 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	254.64 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 34.00 °
総掘進長	5.00 m	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポンプ		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	252.49	2.15	2.15		崖錐堆積物 (Tl)	茶褐			上部10cmは暗褐色のシルトが優勢。以深、ロームを主体にφ5～30mmの角礫を不均質に混じる土質から成る。0.7m付近まではφ10～20mmの角礫分多く含有し、非常に緩い。以下、緩み度合いは低くなり、この種の地盤としては中位な硬さの範疇となる。又、含水・粘性も中位な度合いに属する。		
2	251.79	0.70	2.85		強風化頁岩 (Sh)	灰			岩芯まで風化し、コアは含水低位な細礫質粘土質砂にて採取される。しかし、変質度合いは岩種判定は容易に可能である。		07/07
3	249.59	2.20	5.05		頁岩 (Sh)	暗灰			1～2mmの細かい層理の発達により、φ10～20mmの礫状と砂状スライムのコア形状にて採取される。風化・変質は概ね、「弱～未」の状態を感じ得るが、岩塊硬度に些かの「軟質」さを従える。4.5m付近から粘板岩質を呈し、修復可能な短棒状コアをも採取される。		07/08
4											
5											

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	1	3／30	3
1.45					
2.15	5	5	5	15／30	15
2.45	50／9			50／9	>50
3.00					
3.09	50／7			50／7	>50
4.00					
4.07	50／5			50／5	>50
5.00					
5.05					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日